

評価領域	研究
------	----

重点目標	・「自ら考えて行動する力」を育むための自立活動の視点を踏まえた授業づくり
------	--------------------------------------



現 状	・昨年度から「自ら考えて行動する力を育む授業づくり～対話的な学習活動を通して～」を研究主題として、対話的な学習活動の設定と学習活動の見直し、改善を進めてきた。その中で、自立活動の視点を踏まえた児童生徒一人一人の実態把握を基にした授業づくり、手立ての工夫などについて、職員の共通理解や具体的な実践方法に課題が見られた。
-----	--



具体的な目標	・全職員が自立活動の捉え方を共有し、研究主題に向けて自立活動の視点を踏まえた児童生徒一人一人の実態把握を基に、授業づくり、授業改善を行う。
--------	---



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動実態シートを基にどのように授業に反映させていくかを職員同士で考えるワークショップを行う。</li> <li>・自立活動の捉え方を共有する研修の機会を設定する。</li> <li>・自立活動の視点を踏まえた授業づくりを行うために、自立活動実態シートを基に単元構成検討会、指導案検討会を行う。</li> <li>・全校授業研究会、学部授業研究会、ミニ授業研究会での授業提示と研究協議会を実施する。</li> <li>・教育課程三部会と連携して授業改善に生かすべき事項を検討する。</li> </ul>
------------	--



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自ら考えて行動する力」を下支えする力の共有や的確な実態把握、手立ての構築のためのワークショップを実施する。</li> <li>・本校の教育専門監から学習指導要領、自立活動ガイドを基に自立活動の考え方等についての講話をもらう。</li> <li>・各学部、各学年が全校授業研究会、学部授業研究会、ミニ授業研究会等に向けて単元構成検討会、指導案検討会、授業提示を行う。</li> <li>・「自ら考えて行動する力」を育むための各学部の視点を明確にした研究協議会と授業改善を行う。</li> <li>・きらり支援学校肢体不自由専門監からアドバイスをもらう。</li> </ul>
----------	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽出児童生徒の自立活動実態シートを基に「自ら考えて行動する力」を下支えする力を考え、検討するワークショップを行ったことで、自立活動を踏まえた授業づくりの流れを共有できた。また、個別の手立ての具体性、妥当性の向上につながった。</li> <li>・講話で自立活動の考え方や配慮事項等を共有した。</li> <li>・全職員が自立活動実態シートを基にした単元構成検討会、指導案検討会に参画し、児童生徒の実態の共有と授業づくりの共通理解が図られた。</li> <li>・「自ら考えて行動する力」を育むための視点での授業提示、研究協議会を全校で3回、小学部6回、中学部3回、高等部4回実施した。自立活動の視点を踏まえ、児童生徒の姿を根拠とした授業研究会を行ったことで、協議が活発になり、授業改善につながった。</li> </ul>
------	---

P

D

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立活動の時間における指導を実施している生徒を対象に、きらり支援学校の教育専門監から授業参加の仕方や校内環境等にアドバイスをいただいた。そのアドバイスを全校に周知し、共有することで個々の生徒への手立ての改善につながった。</li> </ul>	
--	--	--



自己評価	(評価)  B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度、全職員で自立活動についての考え方を共有し、自立活動を基にした授業づくりを進めることができた。自立活動の講話が夏休み明けの開催となったため、もっと早い時期に行う必要があった。</li> <li>・ 今年度は、主に抽出児童生徒の自立活動実態シートを活用して授業づくりを進めたが、一人一人の児童生徒についても同様に行うことが今後の課題である。</li> </ul>	C
------	---------------	--	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)  A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修や研究会が活発に行われており、「自ら考えて行動する力」を育むための授業づくりができていた。</li> <li>・ 研究主題に向けて、自立活動の視点を踏まえた児童生徒一人一人の実態把握を基に、授業改善が行われている。</li> <li>・ 全職員が単元構想検討会、指導案検討会に参画し、児童生徒の実態の共有と授業づくりの共通理解が図られている。</li> <li>・ 授業提示、研究協議会等、全体、各学部で数回実施されている。</li> <li>・ 各学部に応じた活用の仕方、いろいろな場面で学習に取り組まれ、効果的な ICT 活用が進められている。</li> <li>・ 実践し、結果を見て、さらに改善する。常に何かを生み出すことは大変であると感じた。</li> <li>・ 「自ら考えて行動する力」を育むために、全職員で考え方を共有し、様々な取組をしており、授業の改善につながったことは素晴らしいと感じた。</li> <li>・ 抽出児童生徒の自立活動シートの活用について、よい取組と感じたが、具体的な目標に掲げている「一人一人の実態把握」という点については、今後の課題のように感じた。</li> <li>・ 個々の能力に応じた自立目標が細かければ、より達成感が高まり、やる気やモチベーションにつながるのではないか。</li> </ul>	C
------------	---------------	---	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自立活動を踏まえた授業づくりを全職員が意識して行えるよう、単元構成検討、指導案検討において自立活動実態シートの活用を継続する。また、自立活動の研修を早い時期に設定し、実施する。</li> <li>・ 一人一人の児童生徒の的確な実態把握と共有を行うために、全ての児童生徒の自立活動実態シートを活用できるような授業づくりの流れを検討し実施する。</li> </ul>	A
-----------------------	--	---

評価領域	進路指導
------	------

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」を活用し、学び合いの学習活動を計画的かつ系統的に行うことで、キャリア発達を促し、就労意欲の向上につなげる。</li> <li>・職場見学・体験及び、職場実習の意義を周知するとともに、企業と連携し、生徒の実態に合わせた職場実習による生徒の進路決定に向けた効果的な計画を立案する。</li> <li>・「障害者の生涯学習」の充実に向けた活動の立案に向けて、関係機関との連携し講座内容の充実と参加促進を図る。</li> </ul>
------	---



現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」を活用し、学部間の交流や学び合いを計画的に設定し、自己有用感や役割意識の育成を図っている。</li> <li>・企業・福祉事業所と連携し、職場見学・体験・実習を生徒の実態に応じて調整・実施し、進路選択に必要な経験の確保に努めている。</li> <li>・同窓会行事やふれあいハッピースクール（青年学級）を継続し、地域行事への参加も含め、生涯学習と地域移行を見据えた取組を進めている。</li> </ul>
-----	---



具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」や職場見学・実習、作業学習等の取組を整理し、キャリア発達の積み重なりについて校内で共通理解を図る取組推進</li> <li>・職場見学・体験・実習後の振り返りを充実させ、生徒が経験を言語化し、進路選択につなげる取組の推進</li> <li>・青年学級等の活動を生涯学習として整理し、地域と連携した取組へ段階的に広げていくための体制整備。</li> </ul>
--------	--



目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」や職場見学・体験・実習の記録を校内掲示し、児童生徒や職員、来校者が取組を共有できるようにする。</li> <li>・実習日誌や評価票等を基に、生徒の実習経験を作業学習を中心とした日々の指導や進路指導に生かす。</li> <li>・青年学級等の活動について、関係機関と実践内容や今後の方向性を確認・共有する。</li> </ul>
------------	---



具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」や職場実習、職場体験及び見学等、キャリア教育につながる取組について、取組の記録や生徒の振り返りシートなどを掲示し、校内への周知と来校者への情報提供を図った。</li> <li>・職場実習後には、実習日誌や評価票を基に進路指導主事と生徒との面談、保護者と担任との面談を行い、生徒の様子や進路について情報交換を行った。実習での評価は主に作業学習の時間に反映し、日々の指導に生かしている。</li> <li>・大川西根公民館を会場としたWESTフェスタにおいて、青年学級茶道教室を実施した。市管轄施設を活用することで、地域とつながる生涯学習の場として活動を行った。</li> </ul>
----------	---

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」や職場実習、職場体験及び見学等、キャリア教育につながる取組について、記録や生徒の振り返りシートを掲示することで、校内での共通理解を図るとともに、来校者に対しても本校の取組を分かりやすく発信することができた。</li> <li>・職場実習後には、進路指導主事と生徒との面談、保護者と担任との面談を通して、実習での評価や生徒の様子について情報交換を行った。実習で得られた評価を主に作業学習の時間に反映させ、日々の指導につなげることができた。</li> <li>・青年学級については、大川西根公民館を会場としたWESTフェスタにおいて茶道教室を実施し、市管轄施設を活用した活動を通して、地域とつながる生涯学習の場を設定することができた。</li> </ul>
------	---



P

D

自己評価	(評価)  B	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりプラン」や職場実習、体験・見学等の取組について、記録や振り返りシートの掲示を通して校内での共通理解や情報発信を行うことができた。一方で、事前打ち合わせシートの記入に手間を感じる声もあり、計画段階での活用が十分とは言えなかった。今年度途中から活動記録の作成を徹底したが、事前確認シートの在り方については再検討が必要である。</li> <li>・職場実習後の面談や情報交換を通して、実習での評価を作業学習を中心とした日々の指導に反映させることができた。しかし、生徒自身が実習経験を基に進路を主体的に整理・説明できる段階までには至らず、振り返りを進路選択に結び付ける取組としては十分とは言えなかった。</li> <li>・青年学級では、地域施設を会場とした活動を実施し、生涯学習の場として地域とつながる機会を設定することができた。一方で、関係機関と継続的に方向性を共有し、地域と連携した取組として体制化するまでには至らず、目標の達成には今後の取組が必要である。</li> </ul>	C
------	---------------	---	---

↑  
評価基準  
↓

- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価)  A	(意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場実習、職場体験・見学等、キャリア教育につながる取組及び、生涯学習を見据えてた取組もなされ、目標が達成できたと考える。</li> <li>・目標達成のための方策に沿って、具体的な取組がなされている。</li> <li>・取組の記録や生徒の振り返りシートなどが掲示されており、校内への周知と来校者へ情報が提供されておりありがたく感じる。</li> <li>・毎年の職場実習、職場体験及び職場見学等により、地域企業との連携がより深まってきていると感じる。</li> <li>・子どもたちの適性を見つけることはとても大切であるが、本人の「好き」を探すがさらに大切な気がする。</li> <li>・キャリア発達を促す「つながりプラン」を活用し、就労につながる取組を行っており、生徒が様々な体験をし、それを実習につなげたり、校内で発信したりするととてもよい活動であると感じた。しかしその活動が日々の作業学習にとどまり、進路選択までにはいかなかったようだが、こうした活動を継続することにより、生徒一人一人の経験を得ることにつながると考える。</li> <li>・地域のつながりを通して、さらに人とのつながりや体験の場を広げていってほしい。</li> <li>・引き続きの活動推進を期待する。</li> <li>・現状へのアプローチをさらに高めてほしい。</li> </ul>	C
------------	---------------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「つながりプラン」及び各種様式の整理と活用の徹底       <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打ち合わせシートの項目を精選し、再構成する。</li> <li>・4月当初の職員会議で様式の目的と活用方法を確認し、年間を通して活用状況を点検する。</li> </ul> </li> <li>2 実習の振り返りを進路選択につなげる取組の強化       <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後、個別面談を実施し「自分に合っていた点」「合わなかった点」「今後伸ばしたい力」の内容を進路希望と関連付けて整理する。</li> </ul> </li> <li>3 地域連携及び青年学級の体制化       <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年学級の年間計画を4月に関係機関と共有する。</li> <li>・地域施設での活動を継続し、生涯学習の視点を明確にした活動目的を設定する。</li> </ul> </li> </ol>	A
-----------------------	--	---

評価領域	生徒指導
------	------

<b>重点目標</b>	防災についての様々な取組	P
<b>現 状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初は、防災ずきんが整備されていなかった。</li> <li>・令和5年より、運動会後に災害時引き渡し訓練を実施している。</li> <li>・職員にも告知をしない避難訓練の実施回数が少なかった。実施場面も、避難訓練がしやすい指導の形態が多かった。</li> <li>・校内に防犯ブザーが設置されているが、使用したことがある職員がいない。</li> <li>・県内全域で、クマの出没が頻発した。学校周辺でも目撃情報が複数あった。</li> <li>・危機管理マニュアルは、これまでのものを引き継いでいる。</li> </ul>	
<b>具体的な目標</b>	実践的な防災訓練を実施したり、災害の未然防止のために準備をしたりして、教職員や児童生徒、保護者を含めた学校全体の防災に関する意識を高め、安心安全な学校づくりを目指す。	
<b>目標達成のための方策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童生徒の防災ずきんの準備</li> <li>・災害時引き渡し訓練の実施</li> <li>・職員にも告知をしない避難訓練の複数回実施</li> <li>・校内の防犯ブザーの状況確認</li> <li>・クマ対策についての職員研修会の実施</li> <li>・現状にあった危機管理マニュアルの改訂</li> </ul>	
<b>具体的な取組状況</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月上旬までに、全児童生徒の防災ずきんが完備。</li> <li>・運動会後に災害時引き渡し訓練を実施した（3年連続）。</li> <li>・職員にも告知をしない避難訓練を行った。学級以外での場所やグループでの活動時に設定した。2回目の告知無しの訓練では、消防署員に来ていただき、避難の様子について見ていただいた。（前回の反省アンケートを、事前に消防署員にも見ていただいた。）</li> <li>・防犯ブザーの設置個所や使用可否の点検をした。設置個所を職員に通知し、テスト使用を呼び掛けた。また、不審者対応避難訓練の際に使用した。</li> <li>・あきた県庁出前講座を利用して、クマ対策について職員研修会を実施した。</li> <li>・自力登下校生を対象に、クマについての学習会の実施した。</li> <li>・秋田県教育庁保健体育課や特別支援教育課からの指示を受け、「クマを寄せ付けない環境づくり」に取り組んだ。</li> <li>・クマ出没や風水害の状況を鑑みて、生徒指導部報にて居住地の防災メール（QRコード）の紹介をした。</li> <li>・適宜、危機管理マニュアルの見直しを行った。</li> </ul>	D

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の際に防災ずきんを使用している。避難指示アナウンスでも、着用を呼び掛けている（可能な場合のみ着用）。</li> <li>・災害時引き渡し訓練は今回で3年連続の実施。保護者にも訓練内容が浸透してきており、スムーズに行うことができた。当日は降雨だったが職員側も受付場所を変更したり、各係で役割を分担して進めたりするなど、臨機応変に対応できた。全体的に大きな混乱はなかった。</li> <li>・職員へも告知をしない避難訓練において、普段の学級活動以外の場面をあえて設定することで、有事の際の対応の仕方について学級や学部の職員間で話し合う機会が生まれ様々な意見が出された。その後、再度告知無しの避難訓練を実施した際には、以前の訓練を踏まえた対応ができた。さらに、避難訓練の様子を消防署員に見ていただき、児童生徒のみならず、職員に対しても様々なアドバイスをいただいた。</li> <li>・緊急時に防犯ブザーを使用した（生徒の発作時）。速やかに両隣の教室へ緊急を知らせることができた。避難訓練の際も使用したが、階段付近のブザーであっても、階下へ音が届きにくかった。この状況を踏まえて、新たに緊急時を職員室へ知らせる、緊急アラーム（ワイヤレスコール）を設置した。</li> <li>・職員研修を踏まえて、学部や学級等で「クマに会わないための対策」や「クマに会った場合の対応」について学ぶ機会を設けた。</li> <li>・クマ除けスプレー5本（内1本寄宿舎）を準備した。校舎外で活動する際には、クマ除けベルやラジオ等音の出るものと一緒に携帯した。スプレーの性能や使い方についての動画を全職員で共有した。現在までスプレーを使用する場面はない。</li> <li>・自力登下校生徒の保護者へ、保護者送迎や付き添いを依頼した。スクールバス利用の場合は、バス昇降口までの保護者の付き添いを依頼した。年間を通して、登下校の際にクマに送迎することはなかった。</li> <li>・職員による、朝昼の校地内巡回を行ったり、校地内にあったクルミの木12本を伐採したりした。警備会社への忌避作業も依頼した。さらに、大仙市役所から提供された大仙仙北地区内でのクマの目撃情報をまとめ、学校メールにて保護者・職員へ毎日1回情報提供をした。</li> <li>・現状に合わせて、緊急時対応マニュアルの「(火災や地震等)避難時の対応」と「有害獣(クマ等)が出没した場合対応」を改訂し、「風水害時の学校 危機管理マニュアル」を更新した。</li> </ul>
------	---



自己評価	(評価) A	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で、様々な場面における避難指示・誘導についての話し合いが行われ、防災に対する意識の高まりが大いに見られた。</li> <li>・クマの出没が多発する前に職員研修を行うことができ、即時児童生徒への指導に生かすことができた。</li> <li>・現状に合わせて、管理職や事務と連携し、ソフト面では職員に対して情報提供やマニュアルの更新をしたり、ハード面ではスプレーの準備やクルミの伐採などをしたりする対応に、即時に取り掛かることができた。</li> </ul>	C
------	-----------	---	---

↑  
評価基準  
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた  
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない  
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



<p>学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価)  A</p>	<p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防火頭巾の整備やクマ対策などに対して、防災や安全対策が適切に行われ、目標が達成されたと考えます。</li> <li>・ 目標達成のための方策に沿って、具体的な取組がなされている。</li> <li>・ 避難訓練は、告知あるなしに関わらず、訓練することに意義がある。</li> <li>・ 校舎付近でのクマ出没が考えられるので、不審者同様の避難訓練の実施を行ってほしい。</li> <li>・ 告知なし訓練は本当に有効である。対応がバラバラなのは当たり前なのだが、そこに命の分かれ道が見えてくる。続けてほしい。</li> <li>・ 防災への取組に関して、日頃から様々な想定での訓練をしており、児童生徒、職員、保護者が安全対策に深く関心を示していると感じられた。訓練は慣れが生じてしまうことがあるので、告知なしの訓練は必要である。</li> <li>・ クマの出没に関しては、秋田県においては重大な課題であるため、今後も万全な対策を講じていく必要を感じた。</li> <li>・ 一人一人の能力や個性の違いを留意しながらの指導は大変であるが、さらになんぼってほしい。</li> </ul>	<p>C</p>
-------------------	------------------------	--	----------



<p>自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>[クマ対策について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も情報を収集し、適切な判断をし、命を最優先とした対策に取り組む。場合によっては、行政や民間企業、保護者と連携した対策を講じる。</li> </ul> <p>[避難訓練について]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 告知のある無しに関わらず、前年度に準えた時間帯や内容ではなく、様々な時間帯や活動内容を想定した訓練を行いたい。また、各自が身を守る行動を身に付けられるように、シェイクアウト訓練も、適宜取り入れる。</li> <li>・ 事後学習の時間を設け、児童生徒、職員が自身の行動を振り返る機会を設ける。</li> <li>・ 事後アンケートを職員間で共有し、課題点を克服するための話し合いの場を設け、防災意識を高める。</li> <li>・ 消防署や警察署と連携した避難訓練を行い、専門家からの指導を受ける。</li> </ul>	<p>A</p>
------------------------------	---	----------